

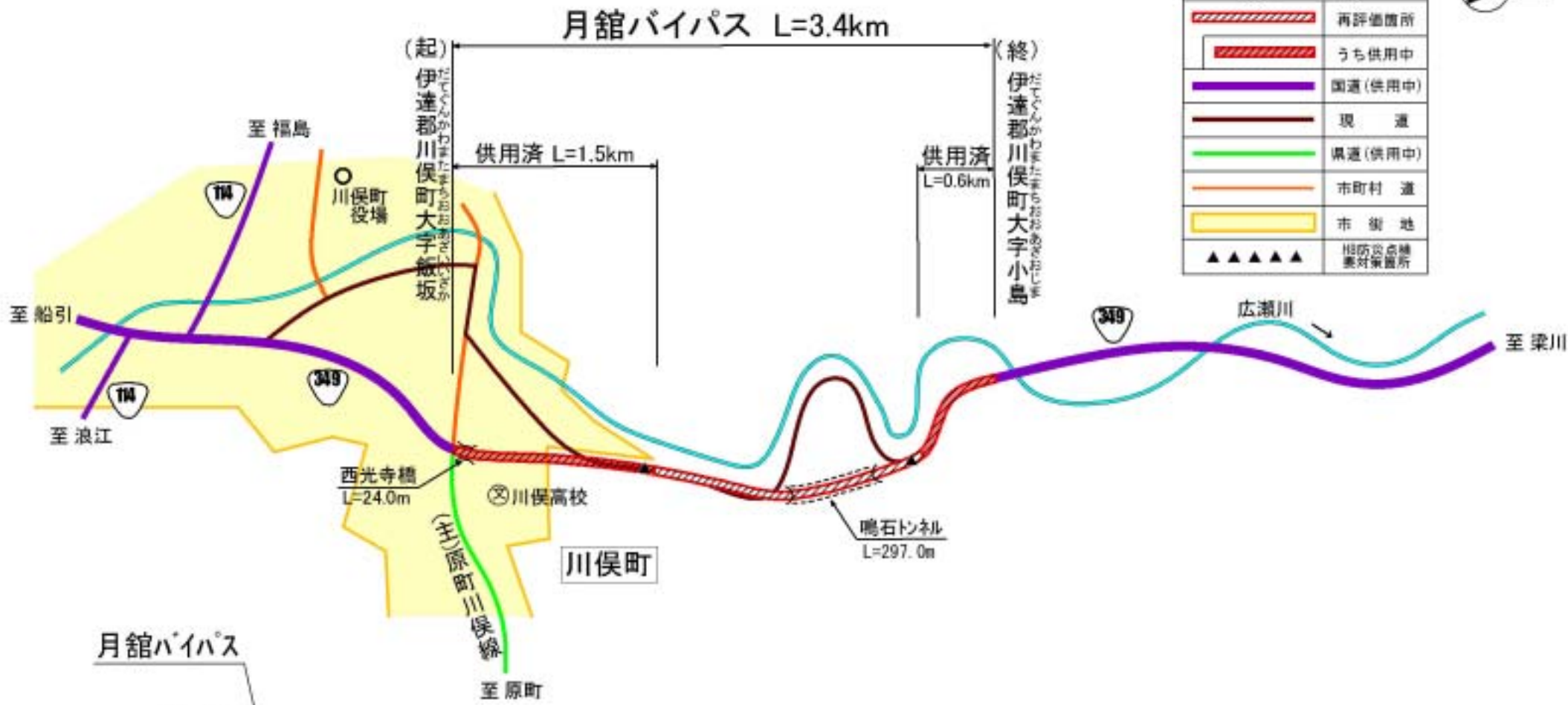
平成 1 6 年度事業別評価調書 (チェックリスト)

整理番号	1 1 1	事業名	国道改築事業	補助 単独	地区名 (事業箇所名)	一般国道 3 4 9 号 (月舘バイパス)	関係 市町村名	川俣町	担当部 (局) 領域 グループ名	土木部道路領域 道路整備グループ	
評価の対象となる理由	要綱第 3 条第 1 項第 4 号 : 評価実施から 5 年経過で継続中					前回 (平成 1 1 年 度) 評価時の対応 方針	委員会からの提言 : 事業継続 付帯意見 : なし			県の対応方針 : 事業継続	
事業根拠法・要綱等の名称	道路法第 12 条、道路法第 74 条第 2 項										
事業 の 概 要	[事業目的及び全体計画] (1) 事業目的 ・ H8 防災点検要対策箇所を解消 (要対策箇所 2 箇所) ・ 大型車交互通行困難箇所の解消 (道路幅員 4.5(6.0)m) ・ 緊急輸送道路の整備 (第二次確保路線) (2) 全体計画 ・ 延 長 : L=3.4km W=6.0(14.0)m ・ 幅 員 : W=6.0(10.0)m ・ 主要構造物 : (仮) 鳴石トンネル L=297m 西光寺橋 L=24m 平成 11 年度評価時										
	事業の採択年度	S62	完成目標年度	H18 H20	用地着手年度	S62	工事着手年度	H2			
	事業費 (百万円)	全体事業費 (うち用地費)	これまでの 投資事業費 合計	左の財源内訳 又は負担割合	これまでの年度別投資実績 (16 年度は見込額である。)						
		2,624 3,391 (818) (1,057)	2,171 (962)	国 55 % 県 45 % 市町村 その他	~ 13 年度	14 年度	15 年度	16 年度			
進捗率	事業費ベース	64.0 %	用地費ベース	91.0 %	供用延長	km (%)	2.1(61.8%)				
事業 の 進 捗 状 況	[整備の状況] 平成 15 年度までに起点側約 1.5km(H5:0.6km、H9:0.9km)、終点側 0.6km(H15)、合わせて L=2.1km 区間を供用するとともに、残る区間の用地買収及び改良工事を進めてきた。 [事業実施上の課題や問題点、今後の事業見通し] 起、終点部の切土法面工に不測の費用を要したため、全体事業費が増工となった。 平成 16 年度からは、残る主要構造物である (仮) 鳴石トンネルに着手することとしており、工 事工程上、事業完了は平成 20 年度となる見込みである。 なお、用地買収も順調に進んでおり、平成 16 年度には電柱等移転物件を除き事業執行に必要 な用地買収は完了する見込みである。 [関連事業の進捗状況] $\text{みなし進捗率} = (B)/(A) = 83\% > 70\%$ 投資済事業費 (B) = 2,171 (百万円)										
	$\text{みなし事業費 (A)} = \frac{\text{全体事業費 } 3,391}{\text{全体工期 } 22 \text{ 年}} \times 17 \text{ 年} = 2,620 \text{ (百万円)}$ 経過年数										
	評価	(A) B、C									
	評価	(A) B、C									
社 会 経 済 情 勢 等 の 変 化	[事業に関する社会経済情勢] (特記すべき事項) (1) 現在の状況 1) 茨城県から宮城県を広域的に結ぶ幹線路線であり、また、川俣町をはじめ月舘町、霊山町、梁川 町等の役場を結ぶ地域を連携する重要な路線である。 2) 緊急輸送道路第二次確保路線に位置付けられ、災害発生時に主要拠点と接続する緊急輸送道路 ネットワークの構築のため早期整備が必要である。 3) これまでに 2.1km の区間を供用してきたが、H8 防災点検における要対策箇所、大型車交互通行 困難箇所が残っており、安全で安心した暮らしを支えるためにも引き続き残る区間の早期整備が 必要である。 (2) 変化の有無 有 (無) (3) 変化の内容 (4) 地域の協働体制等 ・ 本事業に期待する地域の熱意は高く、地域の協働体制が確立している。										
	[事業に関連する評価指標等] (1) 主要な評価指標の変化 * 現道延長ベースで評価										
	評価指標 (算式)	事業採択時 (S62)		評価実施時 (H15)		備 考					
		現 況	完成時	現 況	完成時						
H8 防災点検要対策箇所	2 箇所	解消	1 箇所	解消	これまでの供用により 1 箇所 が解消						
大型車交互通行困難箇所	3.8km	解消	1.8km	解消	これまでの供用により 2.0km が解消						
(2) その他特記すべき事項 現況交通量 (H11) 3,012 台 / 日 計画交通量 (H32) 3,830 台 / 日 [環境への影響等] (1) 環境への影響内容とその対策 特になし (2) その他特記すべき事項 特になし											

平成 1 6 年度事業別評価調書 (チェックリスト)

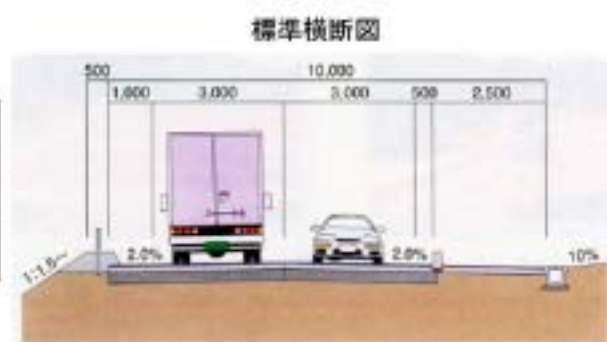
地元住民・受益対象者及び関係機関の意向	<p>【地元住民・受益対象者の意向】</p> <p>(1) 事業採択時の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型車交互通行困難箇所があるなど、安全な生活に支障をきたしていることから、地区住民から早期整備を強く要望されていた。 <p>(2) 評価実施時の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部区間 (2.1km) が開通し状況は改善されてきているが、安全な生活環境の確保のため、引き続き残る区間の早期完成が強く要望されている。 <p>【関係機関・団体の意向】</p> <p>(1) 事業採択時の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川俣町長をはじめとする国道 349 号沿線の市町村長などから構成する国道 349 号建設促進期成同盟会より早期整備を要望されていた。 <p>(2) 評価実施時の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部区間 (2.1km) が開通し状況は改善されてきているが、引き続き残る区間の早期完成が国道 349 号建設促進期成同盟会より要望されている。 	計画変更の必要性・コスト縮減や代替案立案等の可能性	<p>【計画変更の必要性】</p> <p>(1) 必要性の有無 有 <input checked="" type="radio"/> 無</p> <p>(2) 計画変更の理由及び内容</p> <p>【代替案立案の可能性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p style="text-align: right;">【コスト縮減の取組等 (特記すべき事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再生路盤材等の利用を積極的に進めている。 				
	<table border="1" style="float: right; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; padding: 2px;">評 価</td> <td style="padding: 2px;"><input checked="" type="radio"/> A、 B、 C</td> </tr> </table>	評 価	<input checked="" type="radio"/> A、 B、 C	<table border="1" style="float: right; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; padding: 2px;">評 価</td> <td style="padding: 2px;"><input checked="" type="radio"/> A、 B、 C</td> </tr> </table>	評 価	<input checked="" type="radio"/> A、 B、 C	
評 価	<input checked="" type="radio"/> A、 B、 C						
評 価	<input checked="" type="radio"/> A、 B、 C						
費用対効果分析等の要因の変化	<p>【費用対効果分析等】</p> <p>(1) 手 法</p> <p>「客観的評価指評及び費用便益分析マニュアル」 (平成 1 5 年 国土交通省都市・地域整備局街路課長、道路局企画課長通達) に基づく。</p> <p>(2) 費用対効果の変化</p> <p>[前回評価時] [今回評価時]</p> <p style="margin-left: 20px;">B / C = 2 . 2 B / C = $\frac{73.29+2.61+0.12}{38.91+ 4.23} = 1 . 7 6 (1 . 0 0)$</p> <p>【費用の変化等で特記すべき事項】</p> <p>起、終点部の切土法面工に不測の費用を要したことによる事業費の増加。</p> <p>【需要効果の変化等で特記すべき事項】</p> <p>特になし</p>	総 合 評 価	<p>【総合評価と対応方針案】</p> <p>(1) 総合評価</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 事業を取り巻く環境は特に変化しておらず、事業採択時と同様の効果発現が見込まれることから、現計画のとおり整備を進める必要がある。 </div> <p>(2) 対応方針及び今後の事業の進め方</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; padding: 5px;">対応方針案</td> <td style="padding: 5px;">事業継続</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">今後の事業の進め方</td> <td style="padding: 5px;">今後も計画的な投資により、整備促進に努める。</td> </tr> </table> <p>(3) 事業見直し継続、休止、中止する場合の対応</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; margin-top: 10px;"></div>	対応方針案	事業継続	今後の事業の進め方	今後も計画的な投資により、整備促進に努める。
	対応方針案	事業継続					
今後の事業の進め方	今後も計画的な投資により、整備促進に努める。						
<table border="1" style="float: right; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; padding: 2px;">評 価</td> <td style="padding: 2px;"><input checked="" type="radio"/> A、 B、 C</td> </tr> </table>	評 価	<input checked="" type="radio"/> A、 B、 C	<table border="1" style="float: right; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; padding: 2px;">評 価</td> <td style="padding: 2px;"><input checked="" type="radio"/> A、 B、 C</td> </tr> </table>	評 価	<input checked="" type="radio"/> A、 B、 C		
評 価	<input checked="" type="radio"/> A、 B、 C						
評 価	<input checked="" type="radio"/> A、 B、 C						

〔位置図〕及び〔事業概要図〕



*現道延長ベースで評価

評価指標 (算式)	事業採択時 (S62)		評価実施時 (H15)		備考
	現況	完成時	現況	完成時	
H8防災点検要対策箇所	2箇所	解消	1箇所	解消	これまでの供用により1箇所が解消
大型車交互通行困難箇所	3.8km	解消	1.8km	解消	これまでの供用により2.0km箇所が解消



(別紙)

費用対効果分析

国道改築事業（一般国道 349 号 月舘バイパス）

$$\frac{\text{効果（便益）} B}{\text{費用} C} = \frac{B + B + B}{C + C}$$

[費用項目]

- C : 事業費
- C : 維持・管理費

[効果項目]

- B : 走行時間短縮便益
 - ・整備後の道路を利用することにより整備前の道路に比べ目的地への所要時間を短縮でき、その短縮時間をさらに有効に使うことができる効果（短縮時間を労働賃金等で貨幣換算したもの）
- B : 走行経費減少便益
 - ・道路整備により、路面の条件、速度等の走行条件の改善に伴う燃料費、オイル代、タイヤ代、車両整備費等の節約できる効果
- B : 交通事故減少便益
 - ・道路整備により、混雑が少なくなるなどの安全性が向上するため、交通事故の減少が期待できる効果（減少分（物的、人的損害額）を貨幣換算したもの）

[考え方]

評価時点を基準年度として工事期間と完成後 40 年間に生ずる効果額、費用額を算出し比較する。

計算

$$\frac{B + B + B}{C + C} = \frac{73.29 + 2.61 + 0.12 \text{ (億円)}}{38.91 + 4.23 \text{ (億円)}} = \frac{76.02 \text{ (億円)}}{43.14 \text{ (億円)}} = 1.76$$